

その昔、インドの仏教徒の間では、尊敬する^{サンボウ}三宝（仏・法・僧）に対して食物や品物を提供することを供養とした。やがて仏像への^{スウハイ}崇拜が深まってくると、接客作法がとりいれられて、生きている人にすると同じく仏様に、花、水、香、食物などをささげるようになった。仏教が日本に入ってきてこの習慣は亡くなった人（先祖）の冥福を祈ったり、追善したりすることを供養とする意味になってきた。

^{ツイゼンエコウ}追善回向とは、生きている者が、^{センモウ}先祖・先亡の人の為に法事仏事を営み、仏にお供えをしたり、親族、知人及び僧侶に飲食を施して供養の善業を積むことにより、生者の徳が回し向けられて、死者への功德になることをいう。

先祖は生前の悪業によって地獄におちているかもしれないが、残された人の真心のこもった供養で^{ゲダツ ジョウブツ}解脱（成仏・覚り）させることができる。